

宮崎市「事務事業の外部評価」 事業別判定結果シート

チーム名	第 2 チーム	担当課名	学校教育課
事業番号	2-1	事務事業名	特別支援教育バリアフリー化整備事業

判定結果	現 行 ど お り
------	-----------

【結果内訳】

判 定		判 定 理 由	
選択人数	区 分	選択人数	項 目（複数選択可）
0	不要 (廃止)		① 事業の趣旨・目的に妥当性がない。
			② 目的を達成する手段として、他の手法が考えられる。
			③ 市民ニーズ(需要)や時代の変化などにより、事業の効果がなくなっている、又は薄れてきている。
			④ 個人が自助努力・自己負担することが適当である。
			⑤ 民間が実施すべきである(行政の役割終了・民間の方が効率的にできる等)。
			⑥ 国又は県が実施すべきである(国・県で実施する方が効果的・効率的、国・県で同じサービス水準により実施すべき等)。
			⑦ その他
1	見直しが必要		① 事業規模(サービスの受給対象者・水準等)を縮小できる可能性がある。
			② 事業の目標や目標期限などの見直しが必要である。
			③ 他の事業との統合を検討すべきである。
		1	④ 実施方法の見直しにより経費削減の余地がある。
			⑤ 財源確保(負担の見直し、国・県の支援等)について検討すべきである。
			⑥ 外部委託、市民協働・参画などを検討する余地がある。
			⑦ その他
3	現行どおり		現在の事業内容・手法で行うことが妥当である。
2	拡充が必要	2	① 事業の対象者の範囲を拡大し、又は数を増加させる必要がある。
			② サービスの内容等をさらに充実させる必要がある。
			③ その他

【判定人からのコメント】

○「現行どおり」とした判定人の主なコメント	○その他の判定人の主なコメント
<p>① バリアフリー化の要望に応えられる現状を維持する。</p> <p>② 目的が明確なだけに、きっちり整理して対応していくべきだ。</p> <p>③ 教育委員会（事務局）内での計画調整が必要である。</p>	<p>④ 下肢の障がいのみにとどまらず、ノーマライゼーションの理念を進める上で、他の障がいのある児童生徒への十分な対応にも配慮が必要である。</p> <p>⑤ 他の障がいに対しても、点字表示や点字ブロックなどのハード面の整備やソフト面（障害の理解、助け合うこと、手を貸してやることなど）における教育を充実させて欲しい。</p> <p>⑥ 一般競争入札の導入で経費を削減できる可能性があるのので検討すべきである。</p>